はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭 1 和 5 0年7月から実施しているものです。四半期 2 毎に調査を行い、D. I. を中心として分析を行っ 3 ています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を 行い、次の8業種を選定しております。

- 縫製業
- ② 電子部品·半導体製造業
- ③ 漆器業
- 4) 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、平成29年7月~9月期の業況 実績と、平成29年10月~12月期の見通しに ついて、管内771先の事業所を対象に実施いた しました。

些かなりとも経営のお役に立てれば幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加(上昇)したとする企業と、減少(下降)したとする企業の全体に占め 6 る構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

* * * * 目次 * * * *

-		棚	:	況	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	
,		地	区	内	の	業	况	D	. I		推	移	•	•	•	•	•	•		2	
3			般	業	種	の	業	況													
	(1)	製	造	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		3	
	(2	2)	卸	売	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		4	
	(3	()	小	売	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		5	
	(4	.)	サ	_	ピ	ス	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		6	
	(5	<u>(</u>	建	設	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		7	
	(6	5)	不	動	産	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		8	
Į		地	場	産	業	の	業	況													
	(1)	能	登	地	区	の	縫	製	業	•	•	•	•	•	•	•	•		9	
	(2	2)	能	登	地	区	の	電	子	部	品										
						•	半	導	体	製	進	業	•	•	•	•	•	•		10	
	(3	3)	能	登	地	区	の	漆	器	業	•	•	•	•	•	•	•	•		11	
	(4	(能	登	地	区	の	木	材	業	•	•	•	•	•	•	•	•		12	
	(5	5)	能	登	地	区	の	建	具	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	13	
	(6	5)	能	登	地	区	の	織	布	業		•		•	•	•	•	•		14	
	(7	")	能	登	地	区	の	繊	維	•	雑	品	業	•	•	•	•	•		15	
	(8	3)	能	登	地	区	の	観	光	業	•	•	•	•	•	•	•	•		16	
5		経	済	指	標			•									•	1	7~	~18	
;		特	别	調	査																
		中	小红	2	纟経	営	لح	地:	域。	노 0)関	わ	ŋ	に	つし	17	_				
																				- 19	

(注) 平成 29 年 7~9 月を今期、平成 29 年 4~6 月を前期、平成 29 年 10~12 月を来期という、以下同じ。 調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率(%)	構成比(%)
製 造 業	2 2 9	206	90.0	29.2
卸売業	3 6	3 4	94.4	4. 8
小 売 業	2 3 0	2 1 0	91.3	29.8
サービス業	1 3 1	1 2 4	94.7	17.6
建設業	1 1 1	103	92.8	14.6
不動産業	3 4	2 8	82.4	4. 0
合 計	771	7 0 5	91.4	100.0

◇◆◇ 概 況 ◇◆◇

《 2017·7~9 月》

県内においては高い有効求人倍率を背景に雇用・所得環境の改善が続いており、とくに 製造業を中心として好調が続いている。ただ、各業種に共通して人手不足感が強く、この 状況が続けば需要に供給が追いつかない状況も予想されている。

こうした中、当金庫営業地区の今期(平成29年7月~9月)業況D.I.は、 \triangle 13.6 と前期比5.9ポイント改善を示した。

地区内全体では製造業と卸売業を除いた業種で改善を示し、小売業では自動車や食品関係が好調に推移し、サービス業では観光による入り込み客の増加により、宿泊業・観光業を中心に回復した。建設業では住宅建築が緩やかに持ち直していることを背景に、また不動産業では在庫不足がやや改善したことにより改善に転じた。

地場産業では、夏の観光シーズン到来を受けて引き続き観光業が好調に推移し、為替相場が比較的安定していたことが要因となって織布業が改善を示した。ただし、地場産業全体での業況D.I.平均値では、昨年同期の $\triangle 11.66$ に対し、今期は $\triangle 16.72$ と5.06ポイント悪化した。

来期(平成29年10月~12月)の地区内における景況は、地場産業における電子部品・半導体製造業や縫製業、漆器業では横這い圏内での推移を予想しており、建具業と僅かであるが織布業や繊維・雑品業が改善を見込んでおり、一般業種の中では製造業が改善を予想している。ただその反面、他の業種では悪化を見込んでおり、とくにサービス業では、地場産業である観光業がオフシーズンに向かっていくことから、入込客の減少による悪化を見込み、小売業でも影響を予想している。結果、全業種による業況D.I.は \triangle 17.1と3.5ポイントの悪化が予想されている。

当地区における景況は、国内各種政策の変更や海外経済の変動など、景気の先行き不透明感は払拭できないものの、個人消費の緩やかな回復や設備投資が今後も高水準での推移が見込まれ、緩やかな改善をみせていくと予想される。

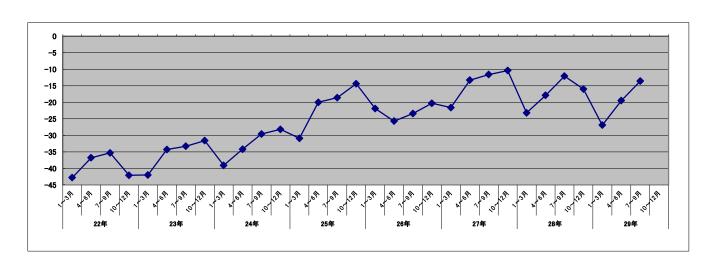
今回の特別調査は「中小企業経営と地域の関わりについて」であるが、各種地域活動への参加には多くの企業が関わりをもって取り組んでおられ、その活動がプラスの影響を与えていると考えている。

今年9月3日(日)から『奥能登国際芸術祭 2017』が開催され、50日間の期間中、実行委員会では3万人の来場者を目指し、多くの企業や団体が関わっており、当金庫も協賛企業として賛同している。

引き続き地域との関わりを積極的に持って取り組んでいくことが必要であり、地域企業に とってはますます重要になっていくと考えられる。

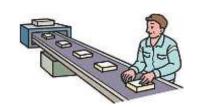
地区内の業況 D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
	1~3月	△ 42.8		1~3月	△ 21.9
H22 年	4~6月	△ 36.8	H26年	4~6月	△ 25.7
N22 4	7~9月	△ 35.3	пио	7~9月	△ 23.4
	10~12月	△ 42. 1		10~12月	△ 20. 3
	1~3月	△ 42.0		1~3月	△ 21.6
H23年	4~6月	△ 34.3	H27 年	4~6月	△ 13. 3
П23-4-	7~9月	△ 33.3	Π2 <i>1</i> 4 -	7~9月	△ 11.6
	10~12月	△ 31.6		10~12月	△ 10.4
	1~3月	△ 39.1		1~3月	△ 23. 2
H24年	4~6月	△ 34. 2	H28年	4~6月	△ 17. 9
N24 4	7~9月	△ 29.6		7~9月	△ 12. 1
	10~12月	△ 28.2		10~12月	△ 16.0
	1~3月	△ 30.9		1~3月	△ 26. 9
H25 年	4~6月	△ 20.0	H29年	4~6月	△ 19.5
1123 42	7~9月	△ 18.6	Π ∠ ₹	7~9月	△ 13.6
	10~12月	△ 14. 4		10~12月	



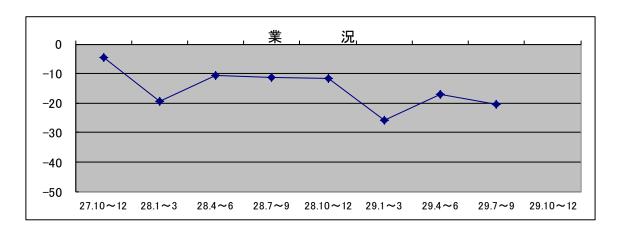












製造業全体では、今期 $(H29.7\sim9月)$ の業況D.I.は $\triangle20.5$ (前期 $\triangle16.9$) と悪化を示した。業種別でみると、僅かながら改善に転じたのは織布業のみで、その他の業種では総じて幅はあるが悪化となった。とくに建具業においては低水準で推移する中での結果から、一層厳しい状況であった。

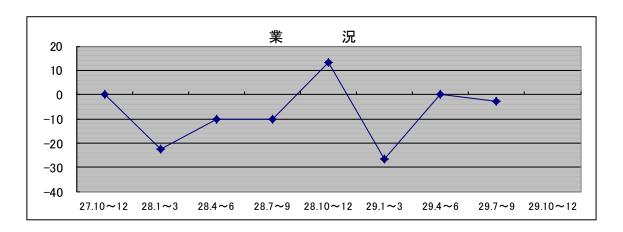
来期(H 2 9. 1 0~1 2 月)の業況 D. I. は \triangle 1 6. 6 と 3. 9 ポイントの改善を予想している。しかしながら中身をみると、大半の業種では横這い圏内での推移を見込むなかで、今期(H 2 9. 7~9 月)大きな悪化を示した建具業が改善を予想することによるものである。

《業績判断D	. І.	の推移》
--------	------	------

		平成 27 年		平成	28 年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	△4. 4	△19. 4	△10.8	△11. 2	△11.8	△26. 0	△16. 9	△20. 5	△16. 6
売	十	11. 3	△22. 3	△2.5	△7. 1	△2. 9	△23. 0	△6. 5	△17. 6	2. 0
収	益	4. 4	△18. 4	△5. 9	△10. 7	△4. 9	△29. 0	△9. 5	△19. 0	△1. 5
資金	繰り	△7.8	△18.9	△10.8	△7. 6	△9.8	△15. 5	△10. 0	△16. 1	△12. 2
人	手	△15. 2	△11. 2	△11. 3	△7. 6	△10. 3	△11.5	△11. 4	△8. 3	△8. 3
設	備	△8. 3	△7.8	△7.8	△9. 1	△6. 9	△6. 0	△6. 5	△5. 4	△50. 0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)				
売上の停滞・減少	15.6 %	提携先を見つける	26. 1 %			
同業者の競争の激化	11.5 %	販路を広げる	18.7 %			
人件費の増加	9.5 %	経費を節減する	16.7 %			





卸売業全体の今期(H 2 9. $7 \sim 9$ 月)業況 D. I. は \triangle 3. 0(前期 0. 0)と 僅かながら悪化を示した。引き続き鶏卵は好調を維持し、木材や燃料など横這いに 推移した。ただし、食品や鮮魚に悪化が見られた。

来期(H29.10~12月)の見通しは、引き続き鶏卵が好調を持続し、酒類や木材などは横這いで推移するも、青果や鮮魚では悪化を予想する。

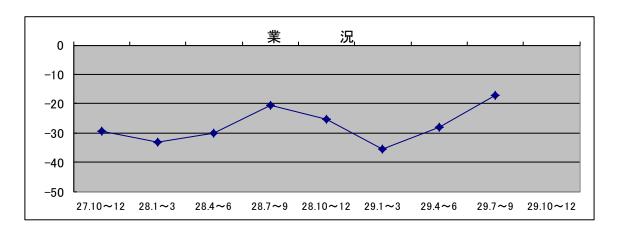
結果、卸売業全体の業況D.I.は△9.1と悪化に転じると予想している。

《業績判断 D.I.の推移》

		平成 27 年		平原	艾28 年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	0.0	△22.6	△10. 3	△10.0	13. 3	△26. 5	0.0	△3. 0	△9. 1
売	上	6. 2	△25.8	△3. 4	△23. 3	△6. 7	△41. 2	5. 7	△3. 0	△15. 2
収	益	9. 4	△32. 3	△6.9	△23. 3	△3. 3	△44. 1	0.0	△3. 0	△12. 1
資金	会繰り	△6. 2	△6. 5	△10. 3	△10.0	△3. 3	△17. 6	△11. 4	6. 1	0.0
仕2	人価格	34. 4	9. 7	17. 2	10.0	△3. 3	△5. 9	5. 7	9. 1	6. 1
在	庫	9. 4	3. 2	3. 4	3. 3	0.0	△17. 6	△5. 7	0.0	△3.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)				
売上の停滞・減少	17.5 %	提携先を見つける	34.5 %			
同業者間の競争の激化	16.3 %	販路を広げる	23.0 %			
合理化の不足	10.0 %	経費を節減する	18.4 %			





小売業では、自動車やオートバイ、カー用品、食品などが好調に推移し、家電や燃料などは横這い、時計・貴金属などの高額品や衣料品が悪化した。全体では今期 $(H29.7\sim9月)$ の業況 D.I.は $\triangle17.2$ (前期 $\triangle28.2$)と改善を示した。

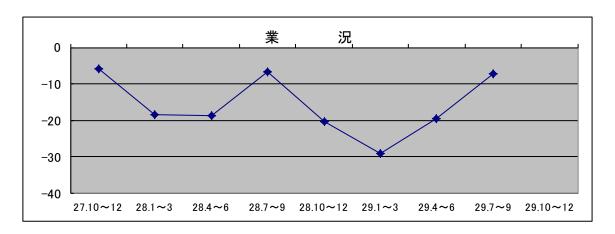
来期(H 2 9. 1 0~1 2月)は、引き続き自動車関連が好調を維持し、燃料関係や食品は横這い、家具や飲食で悪化を予想する。結果、来期業況D.I.については見通しを Δ 2 1. 1 と若干の悪化を予想する。

《業績判断 D.I.の推移》

	平成27年		平成	28 年			平成 29 年		見通し
	10~12月	1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6 月	10~12月	
業	△29. 3	△33. 3	△30. 0	△20. 6	△25. 2	△35. 7	△28. 2	△17. 2	△21. 1
売 上	△17. 6	△22. 7	△21. 0	△10. 3	△21.8	△29. 5	△16.8	△3. 3	△12. 0
収 益	△17. 1	△24. 2	△24. 3	△13. 2	△24.8	△30. 0	△17. 3	△7. 7	△11. 5
資金繰り	△20.0	△24. 6	△20. 5	△16. 2	△27. 7	△26. 1	△14. 9	△14. 4	△12. 9
販売価格	△6.8	△5.8	1.0	△1.5	1.0	1.9	△2.5	3.8	△1. 4
在 庫	2.4	1.9	4. 3	3. 9	0.0	△7. 2	△2. 0	1. 9	3. 3

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)				
売上の停滞・減少	16.2 %	仕入先を開拓・選別する	27.7 %			
地価の高騰	15.7 %	経費を節減する	20.3 %			
商圏人口の減少	13.2 %	品揃えを改善する	11.4 %			





観光シーズンに入ったことにより入り込み客が増加、宿泊業や観光業は改善に転じ、車両修販業や旅客運送業、理・美容業や船舶機械修理業などは横這い圏内で推移し、クリーニング業などが低調に推移した。結果、サービス業全体の今期(H29.7~9月)業況D.I.は△7.3(前期△19.5)と改善した。

しかしながら観光入り込み客は昨年を下回って推移しており、温泉旅館等宿泊業やクリーニング業では悪化を、車両修販業や理・美容業については横這いで推移すると予想している。

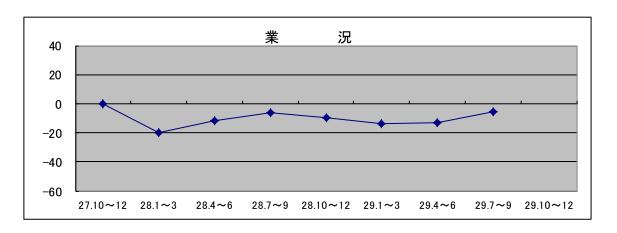
結果、来期(H 2 9. 1 0 ~ 1 2 月)のサービス業全体でのD.I.見通しは、 \triangle 2 1. 1 と 今期に比べ \triangle 1 3. 8 ポイントの悪化を予想している。

		平成27年		平成	28年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	△6. 0	△18. 6	△18.8	△6.8	△20. 3	△29. 3	△19. 5	△7. 3	△21. 1
売	上	△12.8	△19. 5	△10. 7	0.0	△15. 3	△29. 3	△14. 4	2. 4	△17. 7
収	益	△12. 0	△22. 9	△13. 4	△8.5	△19. 5	△33. 6	△17.8	△4. 0	△18. 5
資金	繰り	△19. 7	△18. 6	△17. 0	△16. 2	△15. 3	△24. 1	△20. 3	△16. 1	△15. 3
料金	価格	1. 7	△2. 5	△0.9	△3. 4	△1. 7	△6. 0	△5. 9	1. 6	△2.4
設	備	△6. 0	△6.8	△8. 0	△8.5	△7. 6	△7.8	△9. 3	△8. 1	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)				
売上の停滞・減少	15.8 %	提携先を見つける	28.4 %			
代金回収の悪化	14.9 %	経費を節減する	18.3 %			
利幅の縮小	14.4 %	宣伝・広告を強化する	14.7 %			





住宅建築が緩やかに持ち直していることから、建築全般、管工事、電気工事、タイル工事などの関連業種が堅調に推移したが、土木工事は低調であった。

今期(H 2 9. 7~9月)業況 D.I.は \triangle 5. 8 (前期 \triangle 1 3. 0) と改善を示した。

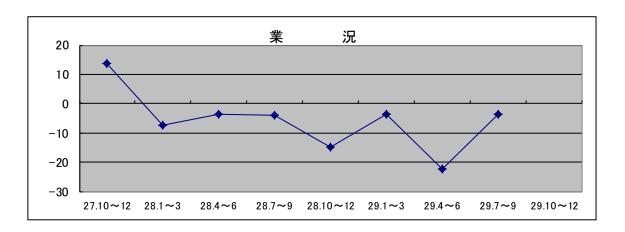
来期(H 2 9. 1 0~1 2 月)の業況 D. I. は \triangle 9. 7 と 今期より 3. 9 ポイントの悪化を予想している。総体的には建設業全体で好調を維持するものの、一部の建築業や土木工事業で悪化を見込んでいることによる。 県内の設備投資が高水準を維持しており、好調が維持すると見る経営者は多い。

《業績判断D Ι の推移	\\

		平成27年		平成	28 年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	0.0	△19.8	△11.6	△5. 9	△9. 9	△14. 0	△13. 0	△5.8	△9. 7
売	上	3. 9	△18.8	△3. 2	2.0	△5. 0	△19. 0	△3. 0	△2. 9	△16. 5
収	益	0.0	△20.8	△6. 3	1.0	△9. 9	△18. 0	△8. 0	△7.8	△16. 5
資金	繰り	△9.8	△15.8	△7. 4	△5. 9	△10. 9	△16. 0	△10. 0	△10. 7	△13. 6
請負	価格	△9.8	△14. 9	△6. 3	△2.9	△16.8	△10. 0	△5. 0	1.0	△5.8
人	手	△12. 7	△3. 0	△5. 3	△8.8	△10. 9	△11. 0	△11. 0	△7.8	△7.8

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
同業者間の競争の激化	19.8 %	技術力を高める	27.4 %	
人件費以外の経費の増加	13.6 %	経費を節減する	18.6 %	
売上の停滞・減少	13.2 %	販路を広げる	13.2 %	

不動産業



【概 況】

売上額の回復が顕著となっており、今期(H 2 9. 7 ~ 9月)業況 D. I. は \triangle 3. 6 (前期 \triangle 2 2. 2) と前回の予想に反して大きく改善を示した。仕入価格の低下が、収益と在庫状況の改善に繋がったと窺える。

来期(H 2 9. 1 0 ~ 1 2 月)の業況 D. I. は \triangle 1 0. 7 とやや悪化を予想している。

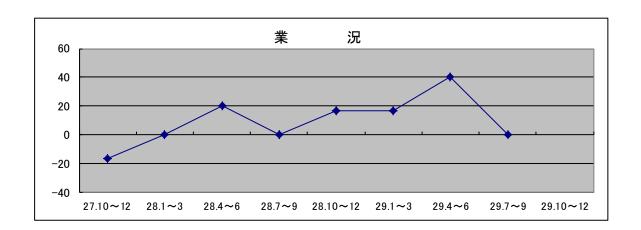
今後、大手企業や同業者間の競争激化が一層進んでいくと答える経営者が多く、同業者による提携に拍車がかかっていくとみる意見が多い。

《業績判	第 D	ו ה	堆段》
\\ ** \ \ \ +	וויאו	1 0)	TH 1727 //

		平成 27 年		平成	28年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	13.8	△7. 4	△3.8	△4. 0	△14.8	△3. 6	△22. 2	△3. 6	△10. 7
売	上	0.0	0.0	3.8	0.0	7. 4	7. 1	3. 7	17. 9	△7. 1
収	益	△3. 4	△3. 7	0.0	△8. 0	7. 4	10. 7	3. 7	17. 9	△7. 1
資金	繰り	△3. 4	△18. 5	△3.8	△8. 0	△11. 1	△7. 1	△11. 1	△7. 1	△10. 7
販売	価格	3. 4	0.0	11. 5	16. 0	7. 4	△3. 6	△3. 7	7. 1	△7. 1
在	庫	0.0	△3. 7	7. 7	12. 0	3. 7	△3. 6	△18. 5	△7. 1	△10. 7

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
同業者間の競争の激化	42.9 %	提携先を見つける	23.2 %	
大手企業との競争の激化	34.3 %	販路を広げる	17.4 %	
売上の停滞・減少	22.9 %	経費を節減する	17.4 %	

能登地区の縫製業



【概 況】

受注先減少に伴い、売上・収益ともに減少となり、今期(H 2 9. 7 ~ 9月)の業況D.I.は 0. 0(前期 4 0. 0)と大きく悪化を示した。

従業員数に見合った仕事量の受注確保は維持されているものの、人手不足により生産性向上が期待できぬこともあり、来期(H29.10~12月)の業況D.I.は、0.0と横這いを予想している。

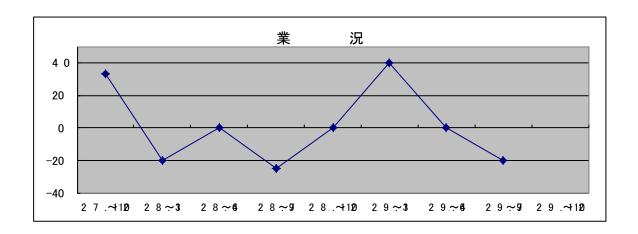
人手の確保が発注先の増加にも繋がるとみているが、少子高齢化が進む地区においては慢性的な人手不足が続いており、経営上の問題点として依然「人手不足」が上位に位置し、重点経営施策にも「人材の確保」を挙げる先が多い。

《業績》	判断口). I.	の推移》
------	-----	-------	------

		平成 27 年		平成	28 年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	△16. 7	0.0	20.0	0.0	16. 7	16. 7	40.0	0.0	0.0
売	上	△33. 3	16. 7	0.0	△14. 3	16. 7	16. 7	0.0	△40. 0	40. 0
収	益	16. 7	0.0	0.0	△14. 3	16. 7	16. 7	△20. 0	△20. 0	40. 0
資金	繰り	△16. 7	△16. 7	△40. 0	△14. 3	0.0	0.0	0.0	△20. 0	20.0
人	手	△33. 3	△16. 7	△20. 0	△42. 9	△33. 3	△33. 3	△40. 0	△40. 0	△40. 0
設	備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
地価の高騰	17.6 %	新製品・技術を開発する	23.1%	
人手不足	11.8 %	人材を確保する	23.1%	
輸入製品との競争の激化	11.8 %	経費を節減する	15.4%	

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

スマホ向け部品を中心とした持ち直しの動きに一服感が漂い、加えて自動車関連も良くなかった。結果売り上げは悪化を示し、業界全体の今期($H29.7\sim9$ 月)D.I.については、 $\Delta20.0$ (前期0.0)と大きく悪化を示した。

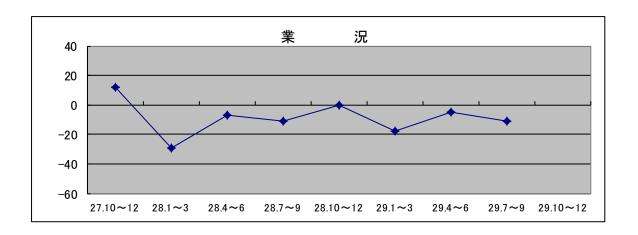
来期(H 2 9. 1 0 ~ 1 2 月)の業況は、D.I.を \triangle 2 0. 0 と横這いでの推移を見込む。

《業績判断 D.I.の推移》

		平成 27 年		平成	28年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	33. 3	△20.0	0.0	△25. 0	0.0	40.0	0.0	△20.0	△20. 0
売	上	33. 3	△20.0	20.0	0.0	50. 0	0.0	28.6	0.0	40. 0
収	益	33. 3	0.0	△20.0	25. 0	50. 0	0.0	0.0	△40.0	0.0
資金	繰り	33. 3	20.0	△20.0	25. 0	△16. 7	0.0	14. 3	20.0	20. 0
人	手	0.0	0.0	△20.0	50. 0	△16. 7	0.0	14. 3	0.0	0.0
設	備	△16. 7	0.0	△20.0	△25. 0	16. 7	0.0	0.0	△20. 0	0. 0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイ	ント)
大手企業との競争の激化	16.7 %	輸入製品との競争の激化	33.3 %
同業者間の競争の激化	16.7 %	売上の停滞・減少	22.2 %
人件費の増加	16.7 %	人手不足	16.7 %

能登地区の漆器業



【概 況】

夏の観光シーズンを迎え改善を期待したが、今期(H 2 9. 7 ~ 9月)の業況 D. I.は \triangle 1 1. 1 (前期 \triangle 5. 0) と悪化を示した。しかしながら観光客の入込み数が前年を下回っていることを考えれば、緩やかな低下で推移した模様。

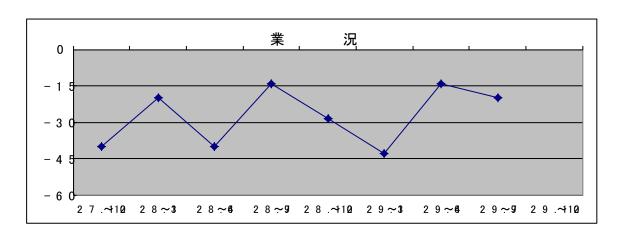
来期($H29.10\sim12月$)は、秋・冬の観光シーズンを迎え入込み客の増加が見込めるものの、今期同様に期待感は薄いものと見る経営者が多く、業況D.I.は横這いに推移を予想している。

《業績判断 D.I.の推移》

		平成 27 年		平成	28 年			平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	11.8	△29. 4	△6. 7	△11. 1	0.0	△17. 6	△5. 0	△11. 1	△11.1
売	上	52. 9	△5. 9	6. 7	△11. 1	△7. 1	11.8	5. 0	11. 1	5. 6
収	益	41. 2	△5.9	13. 3	△11. 1	△7. 1	5. 9	10.0	11. 1	5. 6
資金	繰り	5. 9	△5.9	△13. 3	△11. 1	△21. 4	△5. 9	△5. 0	△5. 6	△5. 6
人	手	△23. 5	△11.8	△33. 3	0.0	△14. 3	0.0	△10.0	△11. 1	△11.1
設	備	△11.8	0.0	△20.0	△16. 7	△14. 3	△5. 9	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)			
同業者間の競争の激化	18.6 %	販路を広げる	20.6 %		
売上の停滞・減少	15.3 %	経費を節減する	15.9 %		
人件費の増加	11.9 %	情報力を強化する	15.9 %		

能登地区の木材業



【概 況】

前年並みに地元丸太の売り上げや外材の入荷が順調に推移しているが、今期(H 2 9. 7 ~ 9月)業況 D. I. は \triangle 2 0. 0 (前期 \triangle 1 4. 3) と低下を示した。

前年と比較して、僅かながら売上数量は増加しているが全体的には単価が減少傾向にあり、売上金額は大きく伸びていない。従って収益や資金繰りにも影響を与えている。

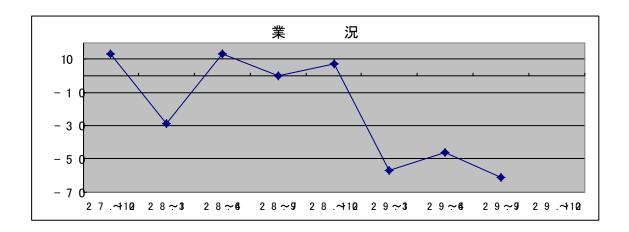
来期(H 2 9. 1 0 ~ 1 2 月)については、売り上げ数量並びに単価も横這いに推移を見込んでおり、業況 D. I. は \triangle 2 0. 0 と予想する。

《業績判	新 D	T (の‡	ŧ 移	>>
	空川し .	1 . '	ひノ 16	Tリツ	//

		平成 27 年	平成 27 年 平成 28 年					平成 29 年			
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業	況	△40. 0	△20. 0	△40. 0	△14. 3	△28. 6	△42. 9	△14. 3	△20.0	△20.0	
売	上	△40. 0	△20. 0	△40. 0	△14. 3	△14. 3	△28. 6	△28. 6	△20.0	△20. 0	
収	益	△20.0	△20. 0	△40. 0	△28. 6	△14. 3	△14. 3	△14. 3	△20.0	△20. 0	
資金	繰り	0.0	0.0	△20. 0	△14. 3	△28.6	0.0	△14. 3	△20.0	△20.0	
人	手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△42. 9	△42. 9	0.0	0.0	
設	備	△20.0	△20.0	△20.0	△14. 3	△14. 3	△14. 3	0.0	△20.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)			
売上の停滞・減少	28.6 %	経費を節減する	20.0 %		
合理化の不足	28.6 %	販路を広げる	13.3 %		
人手不足	7.1 %	品揃えを充実する	13.3 %		

能登地区の建具業



【概 況】

受注は減少傾向にあり、売り上げは改善するも、販売価格低下から収益は悪化を示した。結果、今期(H 2 9. 7 ~ 9月)業況 D. I. は \triangle 6 1. 5 (前期 \triangle 4 6. 2) と悪化を示した。

来期(H 2 9. 1 0~1 2月)の見通しは、売り上げ・収益共に改善を見込み、全体の業況 D. I. は \triangle 3 8. 5 と改善を予想している。

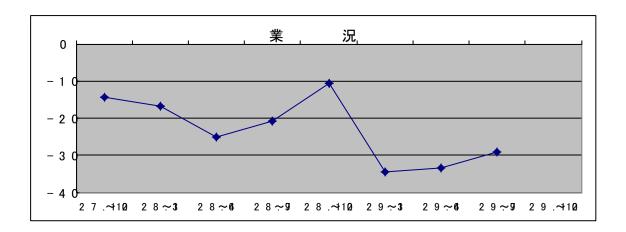
住宅着工が緩やかな改善をみせているが、建具の需要が大きく増加することが見 込めず、業界全体では厳しい状況を予想している。

《業績判断	D	ī	മ	推移》	
-------	---	---	---	-----	--

		平成 27 年	平成27年 平成28年					平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	13. 3	△28.6	13. 3	0.0	7. 1	△57. 1	△46 . 2	△61. 5	△38. 5
売	上	46. 7	△64. 3	20.0	6. 7	△7. 1	△50. 0	△23. 1	△38. 5	0.0
収	益	6. 7	△28.6	6. 7	0.0	△7. 1	△71. 4	△38. 5	△61. 5	△7. 7
資金	繰り	△13. 3	0.0	△6. 7	△6. 7	△14. 3	△50. 0	△38. 5	△53.8	△15. 4
人	手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△7. 1	7. 7	0.0	△7. 7
設	備	△6. 7	△7. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	△7. 7	57. 7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)			
売上の停滞・減少	19.6 %	提携先を見つける	28.1 %		
輸入製品との競争の激化	15.2 %	販路を広げる	21.9 %		
地場産業の衰退	8.7 %	経費を節減する	18.6 %		

能登地区の織布業



【概 況】

昨年末を挟んで大幅な円安に進んだ後、為替相場変動の影響が懸念されるところではあるが、現在まで比較的小幅な動きで推移していることもあって先行き不透明 感は払拭されている。

今期 $(H29.7 \sim 9月)$ 業況 D.I. については $\triangle 29.0$ (前期 $\triangle 33.3$) と僅かに改善を示した。

来期 (H29.10~12月) のD.I.については、冬物受注による売り上げと収益の改善から $\triangle 25.8$ と改善を予想している。

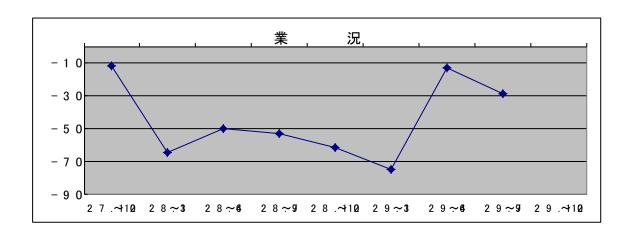
輸入製品との競合が厳しさを増し、大手企業との提携が進む中、企業における課題は多岐にわたっている。

		平成 27 年							見通し	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	△14. 3	△16. 7	△25. 0	△20.8	△10. 7	△34 . 5	△33. 3	△29. 0	△25.8
売	上	△3. 6	△20.8	△12. 5	△16. 7	△3. 6	△27. 6	△22. 2	△29. 0	△6. 5
収	益	△3. 6	△16. 7	△20.8	△25. 0	△7. 1	△37. 9	△18. 5	△22. 6	△12. 9
資金	繰り	△17. 9	△16. 7	△8.3	△8. 3	△7. 1	△10. 3	△3. 7	△12. 9	△16. 1
人	手	△17. 9	△20.8	△12. 5	△16. 7	△3. 6	△17. 2	△18. 5	△6. 5	△6. 5
設	備	0.0	△12.5	0.0	4. 2	0.0	3. 4	△7. 4	△3. 2	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)			
売上の停滞・減少	16.5 %	提携先を見つける	37.2 %		
輸入製品との競争の激化	12.7 %	経費を節減する	25.6 %		
同業者間の競争の激化	8.9 %	販路を広げる	17.4 %		

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

健康関連グッズなど高機能繊維受注が好調なものの、細巾織物については消費が伸びず低迷している。結果、今期(H 2 9.7~9月)業況D.I.は \triangle 2 8.6(前期 \triangle 1 3.3)と悪化を示した。

来期 (H29.10~12月) は、売り上げの増加を見込む企業が多く、業況 D. I. は $\triangle 21.4$ と僅かながら改善を予想している。

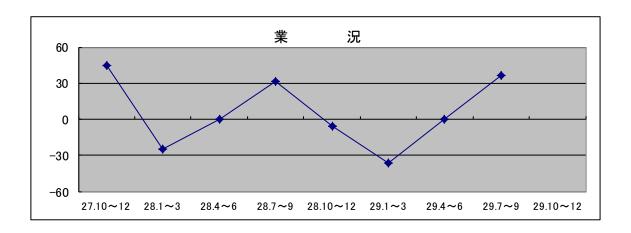
地域内では横の繋がりによる新商品の開発や、業界を超えた企業とのマッチングなど、輸入製品との差別化や販路拡大に向けた営業活動が活発化している。

		平成 27 年		平成 28 年				平成 29 年		見通し
		10~12月	1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	△11.8	△64. 7	△50. 0	△53. 3	△61.5	△75. 0	△13. 3	△28. 6	△21.4
売	上	11.8	△58.8	△22. 2	△53. 3	7. 7	△83. 3	△13. 3	△21. 4	△14. 3
収	益	0.0	△41. 2	△16. 7	△53. 3	7. 7	△83. 3	△13. 3	△28. 6	△21. 4
資金	繰り	△11.8	△47. 1	0.0	△26. 7	△15. 4	△33. 3	△6. 7	△21. 4	△28. 6
人	手	△17. 6	5. 9	△5. 6	0.0	△7. 7	0.0	0.0	7. 1	△7. 1
設	備	0.0	5. 9	0.0	0.0	△15. 4	0.0	0.0	0.0	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)			
売上の停滞・減少	24.3 %	販路を広げる	22.2 %		
輸入製品との競争の激化	24.3 %	提携先を見つける	18.5 %		
工場・機械の狭小・老朽化	8.1 %	経費を節減する	11.1 %		

能登地区の観光業



【概 況】

今期(H 2 9. 7~9月)は夏の観光のシーズンということもあり、業況 D. I. は 3 6. 4 (前期 0. 0) と改善に転じた。昨年同時期との比較でも同レベルの改善度合いを示してはいるが、主な観光地への入込み客数が、北陸新幹線開業の年をピークとして、年々減少していることから不安も大きい。

来期(H 2 9. 1 0 \sim 1 2 月)は秋・冬の観光シーズンを迎えるが、業況 D. I. は 0. 0 と低下を予想している。

売り上げ、収益の低下のほか、経営者のなかには大手との競合や従業員確保について悩む方も多い。

		平成 27 年	平成 28 年					見通し		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業	況	45. 0	△25. 0	0.0	31. 2	△5. 6	△36.8	0.0	36. 4	0.0
売	上	△5. 0	△35. 0	17. 6	68.8	△16. 7	△52. 6	5. 0	68. 2	△9. 1
収	益	△5. 0	△45. 0	11.8	50.0	△16. 7	△52. 6	0.0	54. 5	△13. 6
資金繰り		△10. 0	△5. 0	0.0	6. 2	△11. 1	△5. 3	△20. 0	△4. 5	△4. 5
料金価格		5. 0	0.0	5. 9	0.0	△5. 6	△21. 1	0.0	△9. 1	△9. 1
設	備	△20. 0	△15. 0	△17. 6	△25. 0	△22. 2	△5. 3	△10. 0	△9. 1	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイ	ント)
利幅の縮小	13.2 %	宣伝・広告を強化する	23.1 %
商圏人口の減少	11.8 %	提携先を見つける	23.1 %
売上の停滞・減少	10.3 %	販路を広げる	13.5 %

◆ 労 働			(時間)
	有効求人倍率	実質労働時間	
	(季節調整値)		うち所定外
27年 10月	1.47	150.6	11.1
27年 11月	1.48	151.8	11.0
27年 12月	1.48	149.3	11.3
28年 1月	1.49	142.0	11.0
28年 2月	1.49	148.3	10.8
28年 3月	1.53	152.2	11.0
28年 4月	1.60	156.0	10.9
28年 5月	1.64	143.4	10.3
28年 6月	1.67	155.4	10.5
28年 7月	1.65	154.4	11.2
28年 8月	1.60	148.9	10.7
28年 9月	1.62	151.2	11.2
28年 10月	1.62	149.2	11.4
28年 11月	1.67	153.0	11.8
28年 12月	1.68	152.1	12.0
29年 1月	1.76	141.6	11.6
29年 2月	1.80	151.0	11.8
29年 3月	1.82	151.9	12.2
29年 4月	1.86	156.3	12.2
29年 5月	1.90	146.8	11.6
29年 6月	1.92	157.9	11.7
29年 7月	1.88	154.1	11.7

資料:石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

◆ 信用保	正			(百万円)
	保証	承諾	保証	債務
	件数	金額	件数	金額
27年 10月	237	2,020	30,703	240,651
27年 11月	233	2,883	30,189	234,004
27年 12月	288	2,960	29,635	228,541
28年 1月	170	1,710	29,214	223,109
28年 2月	209	2,487	28,703	217,633
28年 3月	323	3,716	27,917	211,772
28年 4月	282	2,521	27,448	207,068
28年 5月	250	2,640	27,079	202,756
28年 6月	256	2,501	26,598	198,544
28年 7月	230	2,527	25,996	193,256
28年 8月	202	2,244	25,491	188,820
28年 9月	252	3,009	24,997	184,133
28年 10月	205	1,906	24,515	179,829
28年 11月	186	1,972	24,000	175,451
28年 12月	204	2,238	23,380	171,671
29年 1月	170	2,097	23,058	168,046
29年 2月	208	2,411	22,663	164,047
29年 3月	276	2,966	21,981	160,358
29年 4月	191	1,438	21,633	157,545
29年 5月	230	1,703	21,337	154,062
29年 6月	350	2,465	21,076	150,616
29年 7月	244	1,866	20,775	147,022
29年 8月	247	2,231	20,421	143,695

[29年 8月 | 247 2,2 資料:石川県信用保証協会「保証月報」

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	<u> </u>	前年同月比
07/5 10/5	総合	
27年 10月	102.4	0.0
27年 11月	102.1	-0.1
27年 12月	102.0	0.0
28年 1月	99.3	-0.7
28年 2月	99.1	-0.2
28年 3月	99.4	-0.5
28年 4月	99.7	-0.4
28年 5月	99.7	-0.6
28年 6月	99.7	-0.4
28年 7月	99.6	-0.5
28年 8月	99.6	-0.6
28年 9月	99.6	-0.6
28年 10月	100.1	0.0
28年 11月	100.3	0.4
28年 12月	100.1	0.3
29年 1月	99.9	0.6
29年 2月	100.0	0.8
29年 3月	100.0	0.6
29年 4月	100.6	0.9
29年 5月	101.0	1.3
29年 6月	100.8	1.1
29年 7月	100.5	0.9
29年 8月	100.8	1.2

資料:石川県企画開発部統計課

	件釵	金額
27年 9月	4	219
27年 10月	5	182

27年 10月	5	182
27年 11月	6	362
27年 12月	7	860
28年 1月	7	615
28年 2月	8	690
28年 3月	10	6,265
28年 4月	14	1,386
28年 5月	7	295
28年 6月	7	191
28年 7月	4	123
28年 8月	6	1,394
28年 9月	8	163
28年 10月	3	94
28年 11月	6	2,024
28年 12月	5	369
29年 1月	6	134
29年 2月	9	3,834
29年 3月	12	1,414
29年 4月	6	271
29年 5月	6	1,063
29年 6月	4	204
29年 7月	8	179
29年 8月	4	1,862

▲ 建築善工

(壬㎡, 百万円)

▼ 建築作				(十m、日万円)
	建築着工総数		うち住	宅着工
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
27年 10月	140	27,084	689	64
27年 11月	149	33,454	772	72
27年 12月	119	19,782	645	60
28年 1月	142	26,145	435	40
28年 2月	97	19,478	403	47
28年 3月	99	17,956	521	54
28年 4月	127	28,392	733	72
28年 5月	92	18,391	461	50
28年 6月	139	26,797	863	82
28年 7月	116	24,556	838	77
28年 8月	117	21,307	579	57
28年 9月	106	19,914	702	63
28年 10月	108	19,294	677	63
28年 11月	113	22,517	788	69
28年 12月	78	13,641	524	52
29年 1月	116	21,200	625	58
29年 2月	77	16,435	464	46
29年 3月	87	16,538	613	56
29年 4月	100	18,079	591	62
29年 5月	109	20,698	738	70
29年 6月	119	22,664	698	68
29年 7月	100	18,552	650	64
29年 8月	87	16,788	687	65

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額 (件、百万円)

<u> </u>	- 尹明只业员	
	件数	請負金額
27年 9月	508	13,493
27年 10月	518	10,839
27年 11月	333	11,062
27年 12月	315	7,244
28年 1月	225	6,449
28年 2月	182	3,119
28年 3月	235	12,468
28年 4月	338	34,735
28年 5月	275	15,943
28年 6月	513	19,460
28年 7月	508	12,376
28年 8月	500	13,461
28年 9月	499	10,879
28年 10月	412	11,321
28年 11月	335	5,985
28年 12月	285	6,018
29年 1月	302	5,792
29年 2月	308	8,997
29年 3月	261	13,715
29年 4月	180	29,500
29年 5月	305	27,848
29年 6月	460	11,685
29年 7月	532	13,767
29年 8月	467	9,415
次小 士口:	┻ 7-5 11 144. / 12 - 1 - 1 - 1 - 1	#\

資料:東日本建設業保証㈱(石川県内)

◆ 新車登録台数 (台)		
	普通自動車	軽自動車
27年 9月	3,362	1,779
27年 10月	2,613	1,450
27年 11月	2,648	1,371
27年 12月	2,399	1,288
28年 1月	2,343	1,356
28年 2月	3,223	1,932
28年 3月	5,620	3,009
28年 4月	2,269	1,218
28年 5月	2,485	1,131
28年 6月	3,131	1,498
28年 7月	3,035	1,357
28年 8月	2,373	1,186
28年 9月	3,367	1,679
28年 10月	2,841	1,332
28年 11月	2,984	1,476
28年 12月	2,632	1,288
29年 1月	2,584	1,337
29年 2月	3,601	1,832
29年 3月	6,245	2,973
29年 4月	2,538	1,367
29年 5月	2,594	1,350
29年 6月	3,534	1,129
29年 7月	3,134	1,553
29年 8月	2,489	1,194

| 29年 8月 | 2,489 | 資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数		(人)
	和倉温泉	輪島温泉
27年 10月	95,307	24,000
27年 11月	95,667	21,700
27年 12月	78,739	12,600
28年 1月	61,697	8,100
28年 2月	69,634	10,700
28年 3月	76,739	14,900
28年 4月	61,659	14,100
28年 5月	76,506	20,900
28年 6月	71,019	14,300
28年 7月	67,715	13,100
28年 8月	97,797	22,600
28年 9月	71,912	18,200
28年 10月	85,959	21,000
28年 11月	85,742	19,900
28年 12月	73,422	10,900
29年 1月	54,615	7,400
29年 2月	57,478	7,500
29年 3月	75,460	12,000
29年 4月	55,438	10,800
29年 5月	66,457	16,200
29年 6月	63,971	11,500
29年 7月	62,248	14,000
29年 8月	93.928	20.800

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会 輪島市観光協会

◆ 織物生産高 (£m²)

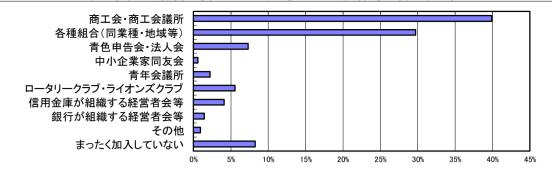
_	槭物生	<u>, </u>
		合計
27年	- 10月	23,285
27年	- 11月	22,433
27年	- 12月	22,257
28年	- 1月	21,336
28年	- 2月	22,811
28年		24,980
28年		23,956
28年		22,187
28年		23,997
28年		23,584
28年		20,160
28年		23,508
28年		23,401
28年		24,335
28年		22,089
29年		20,985
29年		21,315
29年		24,049
29年		22,407
29年		22,118
29年		23,820
29年	7月	22,811

資料:石川県企画開発

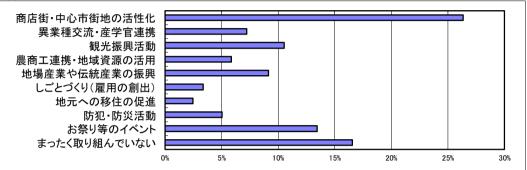
【中小企業経営と地域との関わりについて】

特別調査

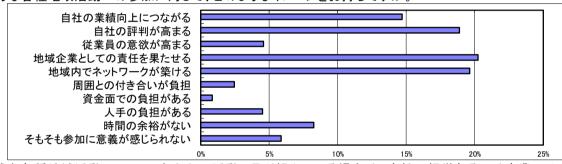
問1. 貴社では団体等に加入していますか。中でも経営に役立っていると感じている団体等は何ですか。



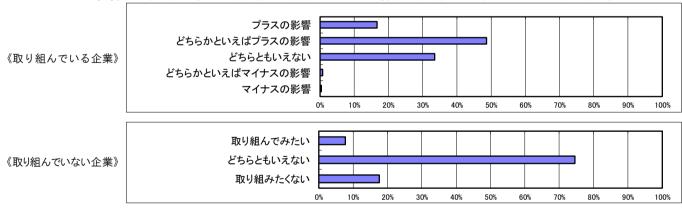
問2. 貴社が地域経済との関わりのなかで取り組んでいる、あるいは協力・協賛している地域での活動は何ですか。



問3. 問2で挙げたような各種地域活動への参加に対して、どのようなイメージをお持ちですか。



問4. 問2で挙げたような各種地域活動について、何らかの活動に取り組んでいる場合は、自社の経営あるいは事業に及ぼしている影響はどうですか。また、活動に取り組んでいない場合は、今後の取組み意向はどうですか。



問5. 今後、地域での各種活動がさらに活発化していくために、地元自治体や地域金融機関に期待することは何ですか。

